

科目名	病態・薬物治療学2			ナンバリング	PHA462	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	林正彦	担当教員	林正彦○、佐藤龍昌○、村田和子、藤原博典				

授業の概要	薬剤師として適切な薬物治療に参画できるようになるために、疾患に関する知識を修得する事を目的とする。とくに薬物治療については、症例を読み、処方解析や投与計画、薬物の作用機序、効力、作用時間、副作用や相乗効果等に関する基本的な知識を修得する事を目的とする。本講義では、主要な腎泌尿器疾患、呼吸器疾患、アレルギー・免疫疾患、消化器疾患の病態生理、症状、診断、治療について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝系疾患(糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、高尿酸血症等)の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 2. 呼吸器疾患(気管支炎、喘息、肺真菌症、肺結核、肺がん、COPD)の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 3. アレルギー・免疫疾患の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 4. 消化器疾患(食道炎、十二指腸疾患、消化性潰瘍、胆肝導系疾患消化器疾患の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内では教科書の内容補足として、プリントを配布する。講義内容のまとめ方の参考にすること。 2 講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で解答すること。 						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝系疾患(糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、高尿酸血症等)の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 2. 呼吸器疾患(気管支炎、喘息、肺真菌症、肺結核、肺がん、COPD)の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 3. アレルギー・免疫疾患の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 4. 消化器疾患(食道炎、十二指腸疾患、消化性潰瘍、胆肝導系疾患消化器疾患の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝系疾患(糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、高尿酸血症等)に対する適切な薬物を選択し、相互作用についても説明できる。 2. 呼吸器疾患の病態生理について説明でき、診断後、適切な薬物を選択し、相互作用についても説明できる。 3. アレルギー・免疫疾患の病態生理について説明でき、診断後、適切な薬物を選択し、相互作用についても説明もできる。 4. 消化器疾患の病態生理について説明でき、診断後、適切な薬物を選択し、相互作用についても説明できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				90%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				10%
宿題・授業外レポート	○	○					加点はしない。提出しなければ減点。
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	講義中もしくは講義前に、前回講義内容に関する小テストを行う。テスト結果は採点・解説し、学習支援システムmanabにて開示する。解答用紙は、要請があればいつでも開示する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	気管支炎、肺炎、COPDの病態生理と診断	気管支炎、肺炎、COPD、喘息などの原因や症状の概要、さらに診断方法について解説する。	SBO:E2-(4)-①-2,3 (担当:佐藤)
	第2回	気管支炎、肺炎、COPDの薬物治療	気管支炎、肺炎、COPDなどの症例を用いて、適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(4)-①-2,3,4 (担当:村田)
	第3回	気管支喘息の治療薬物治療	気管支喘息やアレルギーなどの症例を用いて、適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(4)-①-1 (担当:村田和子)
	第4回	肺真菌症、非結核性抗酸菌症、肺結核の病態生理と診断	肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌などの原因や症状の概要、さらに診断方法について解説する。	SBO:E2-(7)-③-1 (担当:佐藤)
	第5回	呼吸器感染症(真菌、細菌、ウイルス)の薬物療法	呼吸器感染症を原因菌により分類し、適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(7)-③-1 SBO:E2-(7)-②-1 (担当:村田)
	第6回	アレルギー・免疫疾患の病態生理、診断、治療①	アナフィラキシーショック、後天性免疫不全症候群の病態や診断方法、症状に適した治療薬の選択について解説する。	SBO:E2-(2)-②-3,4,5 (担当:村田)
	第7回	アレルギー・免疫疾患の病態生理、診断、治療②	全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シューグレン症候群の病態や診断方法、症状に適した治療薬の選択について解説する。	SBO:E2-(2)-②-6,7,8,9 SBO:E2-(2)-④-1 (担当:村田)
	第8回	移植医療	臓器移植について、拒絶反応及び移植片対宿主病の病態を説明できる。	SBO:E2-(2)-②-9 (担当:佐藤)
	第9回	移植医療における薬物療法	臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応及び移植片対宿主病の医薬品選択などを説明できる。	SBO:E2-(2)-②-9 (担当:村田)
	第10回	糖尿病の病態生理、診断	糖尿病とその合併症(網膜症、腎症等)について、病態生理、症状、診断基準等について説明できる。	SBO:E2-(5)-①-1 (担当:佐藤)
	第11回	糖尿病の薬物治療	糖尿病について、症例を用いて症状や検査結果より適切な医薬品を選択すると共に相互作用についても説明できる。	SBO:E2-(5)-①-1 (担当:林)
	第12回	脂質異常症の病態生理、診断	脂質異常症とその合併症(動脈硬化、血栓症、FH)について、病態生理、症状、診断基準等について説明できる。	SBO:E2-(5)-①-2 SBO:E1-(2)-②-3 (担当:佐藤)
	第13回	脂質異常症の薬物治療	脂質異常症について、症例を用いて症状や検査結果より適切な医薬品を選択すると共に相互作用についても説明できる。	SBO:E2-(5)-①-2 (担当:林)
	第14回	骨・関節疾患(慢性関節リウマチを除く)の病態生理、診断	骨粗鬆症、変形性関節症、骨軟化症等について、病態や診断方法、医薬品選択について説明できる。	SBO:E2-(2)-③-2,3 (担当:佐藤)
	第15回	骨・関節疾患(慢性関節リウマチを除く)の薬物治療	骨粗鬆症、変形性関節症、骨軟化症等について、症例を用いて症状や検査結果より適切な医薬品を選択すると共に相互作用についても説明できる。	SBO:E2-(2)-③-2,3 (担当:林)
	試験			

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	高尿酸血症の病態生理、診断、治療	代謝系疾患の病態生理、その診断法ならびに薬物治療に関する基本的知識を説明できる。	SBO:E2-(2)-③-4, SBO:E2-(5)-②-1,4,5 (担当:佐藤)
	第17回	高尿酸血症の薬物治療	代謝系疾患の薬物治療に関する基本的知識を説明できる。	SBO:E2-(5)-③-1 SBO:E2-(5)-②-1,4,5 (担当:林)
	第18回	内分泌系(甲状腺、副腎、下垂体)疾患の病態生理、診断、治療	内分泌系に作用する疾患の病態生理、その診断法ならびに薬物治療に関する基本的知識を説明できる。	SBO:E2-(2)-③-4, SBO:E2-(5)-②-1,4,5 (担当:佐藤)
	第19回	内分泌系(甲状腺、副腎、下垂体)疾患の薬物治療	甲状腺疾患、尿崩症、クッシング症候群、アジソン病などの病態や薬物治療を説明できる。	SBO:E2-(5)-③-1 SBO:E2-(5)-②-1,4,5 (担当:林)
	第20回	食道、胃、十二指腸疾患の病態生理、診断、治療	胃食道逆流症、胃炎、消化性潰瘍(胃、十二指腸疾患)等の病態生理や診断について解説する。	SBO:E2-(4)-②-1 (担当:佐藤)
	第21回	胃炎、消化性潰瘍、十二指腸疾患の薬物治療	胃炎や消化性潰瘍の病態や診断方法、症状に適した治療薬の選択について解説する。	SBO:E2-(2)-②-1 (担当:田島)
	第22回	小腸・大腸・肛門疾患の病態生理、診断、治療	急性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群等の病態生理や診断について解説する。	SBO:E2-(2)-②-2.6.7.9 (担当:佐藤)
	第23回	小腸・大腸・肛門疾患の薬物治療	小腸・大腸・肛門疾患の病態や診断方法、症状に適した治療薬の選択について解説する。	SBO:E2-(2)-②-2.6.7.9 (担当:田島)
	第24回	肝臓疾患の病態生理、診断、治療	肝炎、肝硬変、薬剤性肝障害等の肝臓疾患の病態生理や診断について解説する。	SBO:E2-(2)-②-3 (担当:佐藤)
	第25回	肝臓疾患の薬物治療	肝臓疾患の病態や診断方法、症状に適した治療薬の選択について解説する。	SBO:E2-(2)-②-3 (担当:田島)
	第26回	胆道・膵臓疾患の病態生理、診断、治療	胆石症、胆管炎・胆嚢炎・膵炎などの胆道・膵臓疾患の病態生理や診断について解説する。	SBO:E2-(2)-②-4.5 (担当:佐藤)
	第27回	胆道・膵臓疾患の薬物治療	胆道・膵臓疾患の病態や診断方法、症状に適した治療薬の選択について解説する。	SBO:E2-(2)-②-4.5 (担当:田島)
	第28回	肺癌、縦隔腫瘍の病態生理と診断	小細胞肺癌や非小細胞肺癌、縦隔腫瘍の病態と腫瘍マーカー、がん遺伝子検査による診断法などを解説する。	SBO:E2-(7)-⑧-9 (担当:佐藤)
	第29回	肺癌の薬物治療、薬剤性肺臓炎	小細胞肺癌や非小細胞肺癌の症例を用いて、症状や腫瘍マーカー、がん遺伝子検査より、肺癌に適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(7)-⑧-9 (担当:林)
	第30回			
	試験	試験は、病態と薬物致傷に分かれて実施する。それぞれ講義毎の小テスト、まとめ演習、期末試験を実施する。小テストは10%、まとめ演習(20%)、期末試験は70%ととして評価する。期末試験は全範囲を対象に実施する。配布している演習問題ならびに講義プリントを参照すること。60点未満の不合格者は、再度復習して再試験に備えること。再試験は全範囲を対象とし、それ以後の試験は実施しない。		
授業の進め方	講義とそれに対する質疑応答とする。講義では教科書の内容補足として、プリントを配布するので講義内容のまとめ方の参考にすること。講義内容の復習のため演習問題を添付する。講義で使用する資料やプリントは「学修支援システム」に保存しているので講義時に持参すること。			
授業外学習の指示	講義を聴いただけで理解したつもりにならないこと。配付資料、特に治療薬マップや作用機序は、配付資料を見ないで書けるようになること。添付している演習問題をその日のうちに解くこと。出来なかったところはその日のうちに調べる。継続して学習することが重要であり、見ただけで理解したつもりにならないように。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)			

教科書	①「疾病と病態生理」豊島 聡監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8 ②「薬物治療学」第4版 吉尾 隆他編集、南山堂、8,800円、ISBN 978-4-525-72051-3
参考書	講義で使用するプリント・資料は、「manab@」からPDFファイルとしてアップロードしている。 「新臨床内科学」高久史磨監修、医学書院、22,000円、ISBN 978-4-260-00305-6 「薬物治療学」平井みどり、三木知博編、化学同人、6,500円、ISBN 978-4-759-81269-5
参考URLなど	
その他	講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で調べ解答すること。5. 基礎的な科学力、8. 研究能力 アドバンスト5%、大学独自10%